

## 執筆要綱

2022年12月7日修正

- 1 原稿は『女性とジェンダーの歴史』専用の「投稿フォーマット」をもちいて作成し、「投稿チェックリスト」とともに下記の「イギリス女性史研究会編集部」にメールで提出する。  
送付先 [jwhn@letterpress.co.jp](mailto:jwhn@letterpress.co.jp)
- 2 論文と研究ノートは和文要旨（400字程度）および英文要旨（200語程度）もあわせて提出する。英文要旨については提出前にネイティブチェックを必ず受けること。
- 3 句読点について  
「点（、）」と「丸（。）」を用いる。
- 4 数字について  
原則として、半角のアラビア数字をもちいる。3桁ごとにコンマを打つ。また、桁数の多い場合、1億3400万円のように適宜単位を補ってもよい。その際は、コンマは用いない。
- 5 単位について  
%、kg（半角）などの略号を用いる。
- 6 図表について
  - 1) 本文と図表は別に作成し、本文中に【図1挿入】【表1挿入】などと記入する。
  - 2) 図表については、図と表を区別し、図表の上部に「図1タイトル」、「表1タイトル」を示し、図の下部に「(典拠) 著者、書名、ページ数」を記載する。また、絵画、図版などの著作権の処理については、掲載決定後には著者の責任で行うこととする。
- 7 注について
  - 1) 注については、本文中に上付き文字で表示し、注は論文末に一括して掲載する。作成に当たりワードの注機能を用いることは可とする。
  - 2) 注の番号は、1)、2)、3)・・・の書式を用いる。

- 8 謝辞は掲載できない。
- 9 科研費などの研究助成表記については、論文末尾に括弧[]を付けて記すことができる。  
【例】 [本稿は●●●●年度科学研究費(課題番号 123456789)の成果の一部である]

## 10 文献表記について

- 1) 日本語著作の表記は以下のようにする。

### ①初出

著者『題名一副題一』出版社、出版年、頁数（複数頁の場合は、1～3頁のように表記する）。[注の最後には句点（。）をつける]。また、連記する場合は著者は同『書名』出版社、出版年とする。

【例】 今井けい『イギリス女性運動史—フェミニズムと女性労働運動の結合—』日本経済評論社、1992年、20～30頁。水田珠枝『女性解放思想史』筑摩書房、1979年、31～40頁。同『ミル「女性の解放」を読む』岩波書店、1984年、41～50頁。

### ②再出

「前掲書」という表記を用いず、著者（姓のみ。同一姓が複数いる場合は名も）[出版年]、頁数とする。同じ著者の著作が同一年に複数ある場合は、[出版年（複数ある場合は、簡単なタイトル表示）]、頁数とする。

【例】 今井[1992]、51～60頁、あるいは、今井[1992（女性労働運動史）]、51～60頁。

- 2) 日本語論文の場合は、以下のようにする。

### ①初出

著者「論文名」、『雑誌名』（紀要の場合は（ ）の中に大学名を入れる）、出版年、頁数、あるいは『書名』発行年、頁数とする。また、同じ著者の論文を連記する場合は、著者には「同」を用いる。

【例】 河村貞枝「移住するガヴァネス—中流階級女性と移民—」、川北稔・指昭博編『周縁からのまなざし—もうひとつのイギリス近代—』山川出版社、2000年、61～70頁。竹内敬子「イギリス工場法とフェミニズム」『女性労働問題研究』第38号、2000年。

### ②再出

「前掲稿」は用いず、著者[発行年]、頁数とする。同じ著者の論文が同一年に複数ある場合は、[出版年（複数ある場合は、簡単なタイトル表示）]、頁数と

する。

3) 欧米語の著作の表記は以下のようにする。

①初出

著者名（姓, イニシャル）、書名（イタリック）、出版地：出版社、出版年とする。編集本の場合は、(ed.) または (eds.) を用いる。

【例】 Godwin, W., *Memoirs of the Author of a Vindication of the Rights of Women*, London : J. Johnson, 1798, pp. 71-80.  
McGlynn, C., Mycock, A., & McAuley, J.W. (eds.), *Britishness, Identity and Citizenship: The View from Abroad*, Oxford: Peter Lang, 2008.

②再出

Ibid, op.cit., は用いず、著者姓[出版年]、頁数とする。同一著者の著作が、同一年に複数ある場合は、日本語文献の方式に準ずる。

【例】 Godwin[1798], pp. 81-90.

③翻訳があり、それを参照した場合は、その情報も記す。翻訳書・論文しか用いていない場合は、翻訳の題名だけを記す。

【例】 Langford, P. (ed.), *Oxford Short History of the British Isles: The Eighteenth Century, 1688-1815*, Oxford: Oxford University Press, 2002 (鶴島博和監修、坂下史監訳『オックスフォード ブリテン諸島の歴史 8 18世紀 1688年－1815年』慶応義塾大学出版会、2013年).

4) 欧米語の論文の表記は以下のようにする。

①初出 著者名（姓, イニシャル）、‘論文名’、雑誌名（あるいは書名：イタリック）、出版年、頁数とする。

【例】 Vickery, A., ‘Historiographical Review: Golden Age to Separate Spheres? A Review of the Categories and Chronology of English Women’s History’, *Historical Journal*, 36, 2, 1993, pp. 91-100.

②再出

著者姓[発行年]、頁数とする。

【例】 Vickery[1993], pp. 100-110.